

『骨髓バンク』を応援！

〜岐阜の物産販売会で〜

高橋 裕子（揖斐郡池田町出身）

6月5日〜6日に全国骨髓バンク協議会主催のチャリティイベントで、岐阜の名産品をブース販売する機会をいただきました。

全国骨髓バンク協議会は、1990年に設立されて以来、20年を迎えました。団体は任意団体、特定非営利活動法人を経て、今年の4月16日認定特定非営利活動法人となり、

加盟団体も36都道府県42団体を数えます。

今回、これを記念して東京有明の有明医療大学にて、記念大会が開催されました。当日は記念講演会のほか、全国の名産品を集めた物産展、全国各地のゆるキャラたちとの写真撮影会などが開催されました。今回、美濃加茂に住まわれている中野勝博さんが、名産品物産展に、是非岐阜も出して欲しいということで、「でえれ〜岐阜やて」にお声掛けいただきました。

当日は、でえれ〜岐阜のメンバーのお子さんの、ゆめちゃんとひなちゃんも参加してくれて、子供店員として頑張ってくれました。全6種類150点ほどあった商品も、2日間ではほぼ完売しました。今回ラインアップさせていただいたのは、岐阜B級グルメで御馴染みの「けいちゃん」、飛騨の漬物「赤カブ漬け」、岐阜県が誇る「鮎の甘露煮」、あま〜いタレの「五平餅」、爽やかな味が特徴の「揖斐茶」、ブランドハム「明宝ハム」等々です。

全国骨髓バンク協議会が、地域の方とのふれあいを目的に開催された



イベントでもあったため、近所のタワーマンションに住んでいらっしゃる方、お散歩途中の方が、物産展にもいらっしやいました。

やはり、人気なのは御馴染みの「赤カブ」。その次が「けいちゃん」先日、「めざましテレビ」で紹介されたばかりで、知っている方もいらっしやいました。また、有明に住んで

いらっしやる岐阜出身の方も多く、「なつかしい〜」と喜んでくださいました。

恥ずかしながら、私も骨髓バンクは聞いたことはありませんが、どんな事をするのか知りませんでした。

しかし、今回参加させていただいて、とてもよく分かりました。話をうかがうと、骨髓の提供は非常に大変です。家族も、本人も想像よりも大変なことです。しかし、白血病や再生不良性貧血などの病気によって、正常な血液を作れなくなってしまう患者さんの骨髓幹細胞を、健康な方の骨髓幹細胞と入れ替えることによりそれで人の命が助かるのです。白血病は医者さんの力が半分、残りの半分はドナーさんがないと治すことはできません。これを機会に、今後も、全国骨髓バンク協議会を応援させていただきます。

また、来年のチャリティイベントは、岐阜の「大垣」で6月4日（土）〜5日（日）開催されます。

